

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300189		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホーム花ごころも		
所在地	静岡県富士市岩本232-2		
自己評価作成日	平成24年12月6日	評価結果市町村受理日	平成25年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/?action_kouhyou_pref_top_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成24年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“グループホームの理念は「笑顔咲く 誰もが微笑む この場所で」
理念をもとに、ご利用者が笑顔で過ごせる場所を職員一同心掛けています。全体外出や個別外出、毎月の行事企画だけでなく、職員がまず笑顔でケアを提供する事をモットーとしております。
またご利用者を寝たきり、寝かせきりにするのケアを職員一同行っていません。
一緒に家事を行ったり、座ってお茶を飲む、そういう当たり前の生活を大切にしています。”

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

誰もが毎回の来所を楽しみとするであろう、和風旅館をおもわせる佇まいの事業所です。設えの良さとともに平屋であることが利用者にも職員にも安心に繋がっています。本年は4例の看取りに取組、〃はじめて、〃の一つひとつに真摯に向かい、職員の学びが深くなっています。また、管理者が核となってデスクンファレンスを繰り返し、職員のメンタルケアもおこなっています。一連の取組を経て、職員からは「明日はないかもしれない(今を大切にしよう)」という言葉が自然にでてくるようになり、以前にも増してその日、その場を大切にしようになったことも財産となりました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念、グループホームの理念を挙げている。職員行動指針を朝礼で唱和し、理念を共有し実践に繋げている。	これまでは法人理念のみでしたが、本年は職員が個々に作成したうえで皆で選考するという方法で、新たに理念を作成しています。また、職員とともに家族にも理念を配り、周知されています。誕生して間もない理念ですが、現状でそぐわないことが起きると、理念に添って検討することができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所所在地である富士市岩松北地区の梅祭りに模擬店を出店したり、滝戸地区(地域)の夏祭りに参加している。また、岩松北児童クラブの生徒さんたちとの定期的な交流の機会を作っている。	地域行事に積極的に参加していて交流が盛んですが、本年は大正琴などのボランティア訪問のメニューも増えています。趣味をもつ人がサークルをつくっている地域の機関へ職員が出向いて交渉した成果で、意欲と熱意の高さが伝わります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内では、事業所での利用者の様子、行事報告を行っている。予定されている行事をお伝えし、ご家族の参加を呼び掛けている。	市介護保険課職員や、民生委員、児童クラブ役員に加え、本年からは地区長や老人会長の参加も得て、多彩な顔ぶれで開催されています。参加者の開拓とともに、「2ヶ月に1回の開催はタイムリーなテーマがもてる」との前向きな姿勢があります。苦情についてもオープンに議題とし、活発な意見交換が成されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、富士市介護保険課の方、民生委員の方、地区の老人会長や滝戸区長にも参加をいただき、助言を頂いている。	運営推進会議には毎回市職員の参加が得られていて、また議事録も次回の案内とともに郵送で届けています。市は介護保険事業所の行事にも積極的にかかわっていて、例えばグループホーム連絡会や介護サービス研究集会などで協力し合う関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、常に会議で話し合う機会を設けている。研修に参加した職員からの研修報告を受けて自分を振り返る機会としている。	身体拘束排除について職員間の知識は標準化されています。職員が動線を考慮しながらソファなどを手すりの代替品として検討している話からは、「してはならない」意識から「安全に暮らしてもらうために」という視点に変化していることが覗えました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修に職員が参加し、全体会議の中で研修報告を行っている。スピーチロックについては、全体会議の中で、改善する為の話し合いを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書、重要事項説明書を詳しく説明し、納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会を行い、ご家族同士のコミュニケーションをとれるようにしている。	本年は意見箱を設置し、記入用紙も備えています。昨年度のバーベキュー会に続き、食事を家族と囲む会を併設の事業所と合同でおこなっています。運営推進会議では家族の参加が固定しているため、曜日を替えるなどの工夫がみられます。	事業所が懸案としている、事業体個別の家族会の開催が実現することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、全体会議、各委員会の会議、主任リーダー会議をそれぞれ開催し、話し合う機会を設けている。	会議の前には議題の募集をしていて、職員の参加意識を高めるとともに、話し合う事柄を精査しています。個人面談を3ヶ月に1回おこない、目標の達成度合いや現状について検討し合う機会もあります。また、管理者以外にもリーダーが数名いるため、職員は相談者を選べる環境にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートに各自、目標を記入し、目標達成できるように努力している。定期的な面談を行い、目標達成へのフォローに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修・施設外研修に参加できる機会を設けている。外部研修で学んだことを、施設内勉強会で再度復習をしている。資格取得に向け、勉強会に参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、富士市GH交流会の実行委員長を務め、毎回の実行委員会開催時には、他施設職員とコミュニケーションを図れた。交流会当日は、お客様も一緒に参加した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人から心配な点や要望などをお聞きし、安心して暮らせるように、関係作りに努めている。自ら訴えることが出来ないお客様に対しては家族から要望などを伺い安心して暮らせるよう配慮し、お客様との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族からの情報をもとに、お客様の気持ちを大事にし、ケアプランにて取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を使い、家族に記入して頂いている。サービス提供していくうえで、必要なことを見極め、必要なサービスも取り入れている。マッサージ、散髪などのサービスがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も事業所で一緒に暮らすものとして、利用者と共に食事をとり、家事を行い、ときに、「おたがいさま」の気持ち大切にしながら生活することを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で要望、相談、ご家族の目線での気付きを伺い、共に支援している関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来て頂ける様な関係作りはもちろんのこと、外出先も以前住んでいた家の近くへ出掛けることが出来る様にしている。	前に住んでいた家に行きたいとの希望を叶えるため、家族との連絡や当日のお弁当の用意などの支援をした例もあります。新たに地元新聞の富士ニュースをとるようになって話材も増え、外出先の情報を得たり、事業所が記事になったりと、多様なツールとなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間には、職員と一緒に座って食事をし、お客様同士のコミュニケーションの橋渡しになるよう努めている。レクリエーションではおやつ作りなどお客様同士が協力しあえる機会を作り、馴染みの関係が築けるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了したお客様に対しても、必要に応じて面談や電話での相談を行い、いつでも相談しやすい関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様と接する際には表情や言葉、行動からお客様の気持ちに気づけるように関わっている。カンファレンスの中ではお客様の生活を振り返り、希望や意向に沿った支援ができているか話し合いを行っている。	気づいた内容は支援経過記録で共有化し、さらに利用者担当が詳細なものを介護看護計画書へ記録しています。看取りでのお見送りを経て約半数が新規利用者となっているため、本人が在宅での生活の延長にあるとともに、他の入居者を含めた安定が優先となっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様ご本人やご家族との会話の中で、過去の暮らしぶりや、習慣を教えていただき、生活の中に取り入れられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の気づきや疑問に感じることは申送りやノートを使用して伝達を行い、職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を聞き、各担当者話し合いを行った上で、介護計画を作成している。また、チームでのカンファレンスを開き、それぞれの意見を反映し、現状に即した計画を立案している。	「居宅サービス計画書」、をケアマネジャーが作成し、さらに詳細な介護方法について記載した「介護看護計画書」を担当介護職員が作成しています。介護看護計画書にはアセスメント欄もあり、大変見やすくなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの個別記録にお客様の毎日の様子や表情、言葉などを記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様の状態の変化やニーズの変化に対してどのように対応していけるか、チーム全体での話し合いを行っている。訪問歯科やマッサージ、薬剤師訪問など外部サービスも取り入れ、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りに参加したり、近隣市町村からのボランティアの訪問、小中学生の介護体験など地域の人との関わりを持つ機会を作り、施設全体での関わりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の往診があり、緊急時には連携をし、柔軟な対応をしている。専門医には家族の対応を依頼し、必要な場合には看護師が同行している。	事業所の近くに協力医が開業しているため、健康状態に変化があればすぐに連絡できる体制が整っています。入所時に主治医を変更するかどうか確認していますが、24時間対応で安心できることや事業所職員とのコミュニケーションが密なことから、ほとんどの利用者が協力医に変更しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	土日祝日は、看護師不在となるため、金曜日には特に注意して申し送りをしています。また、緊急時には、看護師がいつでも連絡を取れる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の先生から紹介状を発行してもらい、スムーズな入院対応、また退院時には、かかりつけ医の先生に報告し、内服薬の変更等の連絡をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの同意については、かかりつけ医の先生にも同席してもらい、説明するようにしています。花ごろもは病院ではないため、医療面のサポートに限界があることも伝えていきます。	医師を中心とした専門職チームで本人と家族を支えての看取りを本年はじめて取り組み、4例続きました。管理者は泊まり込みの家族の話を傾聴し、メンタルケアとともに今後の具体的な対応への提案や相談もおこなっていて、女性ならではのきめ細かな配慮に感心しました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職して業務を覚え始め落ちついた頃に、看護師から介護職員に緊急時の使用物品に場所、使用方法の指導をしている。初めて夜勤をやり始める前の職員にも復習を兼ねて再度指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の練習、避難訓練を実施している。	防災用具業者の具体的な説明なども盛り込み、年2回の防災訓練をおこなっています。新採職員とともに3年の更新時には先輩職員も普通救命講習に参加しています。また、緊急連絡網の電話連絡のシミュレーション訓練もおこなっています。	地域の防災訓練に職員が参加することをはじめの1歩とし、地域連携を推進することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様に対しての言葉使いがきついことがある職員に対し、若手職員から上司に報告が出来る体制がある。してはいけないこと、自分がされたいやなことをしないように常に職員に指導している。	本年の新たな取り組みとしては、ドアを開けてもすぐ見えないように風呂場に暖簾をつけています。居室やトイレのドアを閉めることはできていますが、ノックは全員ができていたとは言えず課題です。接遇委員が四半期毎に本部での研修に参加し、学んだことを職員ロッカーに張り出したり、内部研修に活かしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員がお客様の希望を確認し、企画をたて、外出など行っている。職員が代行し買い物に行くときには、お客様に好みのものを確認した上で購入している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	対応が難しいお客様の対応をするために、まずは会議で話し合いをし、勤務時間をずらすなどして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、お客様と相談しながら、当日の衣類を決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、献立会議を開催し、お客様の好みを中心に提供できるよう配慮している。調理、片付けもお客様にお手伝いして頂いている。	食材は業者に届けてもらっていますが、メニューは職員が手作りしています。A、Bどちらか選べるメニューは、職員との話材にもなり、利用者の楽しみのひとつです。「食事は口で食べ続けられるように」という方針のもと、ADLが低下しても職員が食事介助しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に9時、11時、15時に水分を摂って頂いている。水分量が特に少ないお客様は、個人のバイタルチェック表に水分量を毎回記入して、細めに補水している。食べる量が少ないお客様に対してカロリーの高いジュースなど飲みやすいものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアの声掛け、介助をしている。 夜間はポリデントを使用して消毒をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	数名の利用者が紙パンツから布パンツを使用できないか排泄委員会で検討して実際に布パンツを移行した。最後までトイレでという方針でそれぞれの利用者の状態に適した介助方法を行なっている。	「オムツを使わないケア」「トイレで排泄できるケア」という方針をもち、生理学に基づいた介助方法をおこなっています。また、トイレの設計も車いす対応の動線について熟考されたものになっています。夜間についての安眠優先否かは、本人・家族の意向に添っておこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用して、利用者の排泄リズムを分析したり原因を考え、その方にあつた対応をしている。なるべくトイレに座り腹圧をかけて自然排便を促している。レクの体操で体を動かして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	曜日や時間帯を決めずに、その方に合わせたお湯の温度調整を行ったり浴槽に椅子を入れたりと安全に配慮しながら気分良く入浴して頂けるように務めている。	ビハの木目が美しい浴槽は手理め込み式になっていて、移動しやすいだけでなく、ゆつたりと寛げる広さで設計されています。2日以上空かないようにしたり、入浴後に保湿剤を塗布するなど、清潔への配慮もあります。入浴委員がアンケートをとつていて、BGMなど希望が反映されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や様子に合わせて休息を取って頂いている。昼夜逆転しないようにレクに促し体や頭を動かして頂いている。夜間は時間になったら寝るのではなく、満足されるまでリビングで過ごして頂き、その方に合わせて入眠して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬しているものがわかる最新の薬ファイルがいつでも目に通せる場所に置いてある。 お客様の薬が変更の時は、看護師からかならず説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に担当があり、その方の状況、要望を1番に考え対応するように務めている。日常生活では、料理作りの手伝い、皿洗い、食器拭きなどご本人の能力に合わせた役割を無理しない程度に楽しんで行なつて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個別外出を定期的に行なつており楽しみの1つになっている方もおられる。	事業所の周囲に流れる小川沿いを散歩コースに設定していますが、新しく入居した利用者の見守りにとられ、現状は取組が減っています。衣類の買い物や甘味処、地域のお祭り、浅間神社などへ個別で出かけています。家族の要望もあり、週1回、自宅で1泊する利用者もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の要望に合わせてお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いを本人がご家族に書いて頂いている。書けない方は職員が普段の様子をお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設が和の造りで温かみを感じられるので居心地よく過ごせる。花を飾り季節感を感じて頂いている。	天井、引き戸、欄間など、ふんだんに木がつかわれていて、ほっとできる空間です。共用空間は優しい間接照明に包まれ利用者は穏やかな時間を過ごしています。洗面所は車いすでの利用がスムーズな造りになっていて、また死角ができないように小窓が設置され、安全への配慮も確認しました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いたり、好きな場所で過ごせるように工夫をしている。新しく入居されたお客様への居場所づくりへの工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に以前、自宅で使用していた馴染みのあるタンス、座椅子など置くなどして居心地良く過ごせるように配慮している。	各居室前には見やすく大きな表札が掲げられ、室内レイアウトをフローリングと畳敷きから選択できるようになっています。各居室は8畳間に加え床間もあり、使い慣れた筆筒などの家具を持ち込んでいても十分な広さがあります。ひ孫からのプレゼントという絵本や家族写真があり、小物からもぬくもりが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理、整とんを心掛けお客様が安心して過ごせるようにしている。一人ひとりのできること、わかることを理解したうえで、声掛け、介助を行っている。		